



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2022年1月2日

No. 92

わたしたちは主キリストに結ばれており、
キリストに対する信仰により、確信をもって、
大胆に神に近づくことができます。

エフェソの信徒への手紙 3章12節



礼拝献花より

御言葉に生きる

実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

ローマの信徒への手紙 10章17節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『一つの道を一緒に』

牧師 佐藤和宏

ルカ2章41〜52節

私たち日本福音ルーテル教会は、アメリカの南部一致シノッドというルーテル教会の集まりから派遣された宣教師によって、宣教が始められました。礼拝の開始は1893年のことであり、約120年前になります。この南部一致シノッドとは、現在のサウスカロライナ・シノッドにあたりますが、当時、このシノッドが現在の日本福音ルーテル教会ほどの規模でしかなかったことからすると、自分たちに財政や人材の上でゆとりができたから宣教師を派遣するというわけではなく、キリストをまだ知らされていない国々に伝えることを、自分たちに託された使命と確信し、それを祈りとともに実行したにちがいありません。

英語で「シノッド」とは、「教会会議」という意味を持ち、行政的な意味合いも多分にあるでしょう。実は、今日の日課でこの言葉の語源と

なるギリシャ語が用いられているので、これに触れたいと思っています。それは「シノドス」という言葉です。イエスがエルサレムに残っていたことに気づかず、一日分の道のりを行ってしまった場面で、両親は「イエスが道連れの中にいるものと思った」とあります。この「道連れ」と訳されているのが、「シノッド」の語源にあたる言葉になります。すでに触れましたように、英語で「シノッド」とは、教会会議という意味になるのですが、もともと「道連れ」と訳されているギリシャ語を語源としているのです。また、この言葉は合成動詞で、「一緒に」と「一つの道」という二つの言葉から成っています。ここから「道連れ」と訳されているのですが、元々の2つの言葉を意識して訳するならば、「一つの道を一緒に」となるわけです。

サウスカロライナ州にあるルーテル教会が、一つの道を一緒に歩んでいる、これが「シノッド」という言葉の語源から知らされる様子になります。

これと同じように、日本福音ルーテル教会も一つの教会として、一つの道を一緒に歩んでいる教会、いい

え、一つの道を一緒に歩んでいる一つの教会にちがいないのです。ですから、やれ本教会、やれ教区と、責任の所在を問うのではなく、あるいは自分の通っている教会の維持だけに心を傾けるのでもなく、一つの道を一緒に歩んでいることを、共に喜び、励まし合い祈り合って行く教会の群れであり、私たち一人ひとりでありたいのです。

このことは、私たち藤が丘教会についても同じように言えるのでしよう。ルーテル教会では、教会について「全信徒の集まり」としていますから、すべての信徒が集まって藤が丘教会をなしているのです。決して

牧師でも役員会だけでもなく、一人ひとりが集まって、一つの道を一緒に歩んでいる。これが私たち藤が丘教会なのです。私たちはふさわしく教会なのです。私たちがふさわしくないまま、神に選ばれ、聖なる者とみなされ、愛されている一人ひとりです。ただこの理由によって、私たちはキリストという一つの道を一緒に歩むのです。もちろん、私たちがキリストの道を歩めばいいのではありません。神の御心は、すべての人の救いにちがいありませんから、

すべての人がキリストという一つの道を一緒に歩むことを、私たち教会の目的、使命としていくことが、忘れられてはならないことなのです。しかし私たちが頑張つてそのように生きなければならぬということではありません。ここにも主語の転換があることを見逃してはならないのです。すなわち神がその御心を実現するために、主イエス・キリストを通して私たちを用いられるということです。

コロサイの信徒への手紙3章に次のようにありました。「何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。」これは、自分の思いや自分の名に依つて物事にあたつてしまいがちな、私たちに主語の転換の必要を思い起こさせます。すべてにおいて主なる神が、そして幼子イエスが私たちの主語として受け入れられて行く、このことが今日、少年イエスの場面を通して明らかにされているのです。こうして、私たちは主の御心のままに、キリストという一つの道を一緒に歩み始めるのです。(降誕節第1主日)

●市○清○さんより

3月には、私86歳になります。二週に一度とはいえ、礼拝に参加出来ることに感謝しております。最近、新型のケイタイを長男に持たされて、困惑しております。新しいことを学ぶことに意欲が湧きません。宝の持ち腐れです。時々3歳のひ孫が来て、ケイタイで何か調べています・・・。

せめて聖書でもと思って、眼鏡を新調しました。いつのまにかお昼寝に突入してしまいます。但し教会に出席する事が許された日には、カレンダーに印を付けております。今年も主と共に、教会員の皆様に守られて、日々過ごして行ければと願っております。

●田○○るみさんより

母が亡くなってから、今まで長いこと会っていないかった従兄弟たちや、思いがけない人が母のお別れに来てくれて、心温まる交流を深めることが出来たこの頃です。

中でも、インパールで戦死した母の兄の、遺品が返還されてきたと伝えてきた従兄弟の話には、胸

を打たれるものがありました。

戦死した（私から見ると）叔父が、肌身離さず身につけていた武運長久の寄せ書きをした日章旗が、戦死後にイギリス軍兵士の手に渡り、それをオーストラリアの方が香港で入手。その方の孫が京都に留学して日本語がわかったので、是非とも遺族に返したい、という経緯で75年を経た命



日にオーストラリア大使館から母の実家に変換されたという事です。

遺骨も無く、私たちも叔父のことが気掛かりだったので、故国に帰りたいと願った叔父の気持ちと通じ合ったのかな、などと思ったものです。

母を通して、貴重なお働きをしてくださる神様に感謝です。

御言葉に生きる 13 私の好きな聖句

プラ○○梨

いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりびとりに対してどう答えるべきか、わかるであらう。

コロサイの信徒への手紙 4章6節

この聖句を初めて読んだのはいつだったか、もう忘れてしまいました。恥ずかしながら、日本語で読んだのも久しぶりかもしれません。でも、実家ですべての聖句の日めぐりカレンダーで見つけ、持ち歩いているうちにとても好きになりました。

“Let your speech be always with grace, seasoned with salt, that ye may know how ye ought to answer every man.”

(欽定訳聖書版なので少しかたいかもしれませんが、個人的には現代版の“speak graciously (丁寧に話す)”。より“with grace (優しく語る)”が好きです。)

これは、アナトリア半島にあるコロサイという町の人々に宛てて書かれた、使徒パウロの言葉だと知られています。この地方には「トウズ湖」という世界最大級の塩湖があり、この地域に住んでいた人にとって「塩で味つけられた」というのは、わかりやすい比喩だったのかもしれませんが。

塩は腐食を防ぎ、料理の味を引き立てます。量が少ないと味気ないですが、多すぎるとしょっぱくて食べられなくなってしまう。話す前によく考え、相手に合った、気遣いのある言葉を使うように、と解釈できます。「いつでもやさしい言葉を使いなさい」と言えたところに「塩で味つける」というイメージを付け加えた使徒パウロの発想力と表現力に脱帽です。

帰国子女であり国際結婚をした私は、日々、言語の壁を感じています。コミュニケーションには言葉以外の要素も多くありますが、言いたいことを表現できない！思ったように伝えられない！と悩むことがあります。無意識のうちに、自分の言葉で人を傷つけてしまうこともありま(4ページに続く)

す。また、去年の8月に京都へ引越してきてからは、横浜と京都との地域の違いにも学んでいます。こちらでは「京ことば」のように直接的な表現を避ける傾向があり、物事をストレートに言い過ぎてしまうと相手を戸惑わせてしまいます。

なかなか難しいことですが、失敗するたびに使徒パウロのこの聖句を思い出すようにしています。

今年はずっと「塩で味つけられた」言葉を語れたらと願っています。

●●●主日礼拝ライブ配信の回想録

●●●心地よさを目指してー

●●●田○○夫

●●●Ⅲ)ここから全てが始まった(2017～2019)

●●●2017年夏(確か)の役員会の席上で佐藤牧師より主日礼拝のFacebook(フェイスブック)を利用したライブ配信に関する提案がなされました。それ以降、役員会でたびたび話題となり、同年12月に記念すべき第一回目の主日礼拝のライブ

今月の受洗記念日の皆さん

1日 ○瀬○允兄 ○田○兄 倉○姉

○井○司兄 8日 田○○兄

11日 ○田沙○子姉 ○田○志兄

12日 名○○実兄 17日 ○野○苑姉、吉○○子姉

おめでとーうーいいます。



「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」ローマの信徒への手紙 10章17節
福音の教会ウェブサイト <https://www.gk.jp/goka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ配信をしています。(平日朝11時10分)

が世界中に向け配信されました。当初は、小さな三脚の上に先生所有のスマホをちょこんと乗せただけの、至ってシンプルな機材でのライブ配信でした。その頃の教会員の皆さんの反応といえば「何かやっているみたいだな」「毎週ネット配信しているそうだよ」と、どちらかという他人事のような出来事として受け止

■牧師室より

新年の喜びを申し上げます。

過ぐる一年も、教会のために祈りを合わせ、お支えくださったことに心より感謝申し上げます。2021年も、引き続き困難な時期でしたが、それでも主のお守りと導きのうちに、歩むことが出来ました。様々な制限の中で、教会の宣教は通常のようにはいりませんが、宣教のあり方を含め、考えさせられる時間が与えられたと思います。

まだ皆で集まっていたの礼拝は避けなければなりません。それでもこの機会に集まる喜びを新たにすることができました。状況が落ち着きましたら、礼拝に集まる喜びを、共にし、

めていたように思います。ですので、その当時は、教会員への礼拝提供(宣教)というよりは、むしろ遠くにいらっしゃる教会員の皆さんへの礼拝サービスと、教会活動に関心のある不特定多数の皆さんへのみ言葉サービス(宣教・伝道)といった意味合いが強かったのではないのでしょうか。(続く)

教会の交わりを強めてまいりましょう。また、神の御心をすべての人々の救いの実現であり、私たち教会の使命も、隣人に伝えていくことにありますから、礼拝に集まる喜びに満たされ、外に目を向け伝えていく群れとされましょう。

教会総会は、1月29日(土) 10時より開催されます。諸報告は昨年同様略し、質問のみお受けします。役員選挙も引き続き、事前投票となりますので、ご協力をお願いいたします。

今年も「御言葉に生きる」を主題として提案させていただきます。御言葉に立ち、生かされるそれぞれの経験を分かち合い、祈り合いながら、新しい一年の歩みを共にしてまいりましょう。(佐藤)